

日 時：令和 3 年 12 月 10 日（木）11:40～12:30

場 所：名古屋大学 宇宙地球環境研究所Ⅱ・409 室、およびオンライン会場

出席者：伊勢武史，市井和仁，植山雅仁，加藤知道，熊谷朝臣，三枝信子，谷晃，佐藤永，須藤健悟，仁科一哉，林健太郎，檜山哲哉，平野高司，持田陸宏，村岡裕由，山崎剛（以上 敬称略・五十音順）

欠席者：高梨聡（敬称略）

配付資料：

資料 1. 議事次第

資料 2. 今年 9 月 28 日にオンライン開催された国際科学委員会の議事録

資料 3. 今年 12 月 14 日にオンライン開催予定の国際科学委員会の議事次第

資料 4. iLEAPS 研究集会 2021 収支計算書

資料 5. iLEAPS 日本委員会承認プロジェクト第 1 号となった「統合生物圏科学」の紹介

議事進行

議題 1. 議事要旨の提出に関する委員長一任について

- ・ 異論なし

議題 2. 報告事項、国際科学委員会における最近の議論内容、来年 3 月に予定されている Webinar について

- ・ オークランドで開催予定の iLeaps 国際科学会議、2023 年の開催になりそうである（資料 3）。本件、詳細が分かり次第に連絡する。なお、今年 3 月と同様の Webinar を、来年 3 月にも開催予定である（資料 2、3）。

議題 3. 報告事項、iLEAPS2021 研究集会の会計報告

- ・ 残額 30924 円となった（資料 4）。今年度末までに 0 精算する予定。

議題 4. iLEAPS website の今後の管理について。特にドメイン名確保のための予算措置について

- ・ 現在、JapanFlux の外部公開サーバー領域を無償で間借りしている。ただし独自 URL 「ileaps-japan.org」の確保のため、年間約 2000 円必要。iLeaps 研究集会 2021 で行われた懇親会会費の残額が 2020 円あるので（佐藤管理）、差しあたり、そちらを充てる予定。
- ・ 内容の更新などの管理は、今年から佐藤が引き継いでいる（以前の担当者、AsiaFlux 事務局の中田幸美さん）。
- ・ 国環研のセキュリティー管理が厳しくなってきたら、レンタル共用サーバー会社（sakura インターネット）から、国環研内部にサイトを移す可能性がある。

議題 5. 人事

・国際 SSC や日本学術会議から佐藤宛に、各種の情報メールが頻繁に届く。委員の興味を引きそうなものは2~3行の紹介文と共に iLEAPS-ML に流してきた。わりと負担が大きいのと、佐藤一人の判断で取捨選択するのも良くないのと、より適切な国内コミュニティへ情報を展開することが望ましい (iLEAPS-ML の購読者は多くない) との理由により、以下のカテゴリ別に情報担当者を決めた。

→カーボンニュートラル関係：伊勢委員

→陸域生態関係：仁科委員

→大気科学関係：須藤委員

各担当者は、佐藤から転送されてきたメールを、2~3行の日本語紹介文 (もちろん更に長くても構わない) と共に、iLEAPS-ML や、国内の各種関連 ML 等に情報を転送することが期待される。ただし、明らかに日本の誰も関係ない情報は、展開する必要は無い。

議題 6. その他

・追加報告事項、以下を当委員会の承認プロジェクトとして認定した。

【学術変革領域研究 (A)】 区分 IV、2022~2026 年度

研究領域名： デジタルバイオスフェア：地球環境を守るための統合生物圏科学

代表者：伊藤昭彦 (国立環境研究所・地球システム領域・室長)

このプロジェクトには公募課題が設定されており、既に 2022~2023 年度課題の公募が出ている (来年 1 月 28 日〆切)。年間 200~800 万円×2 年の課題を、最大十数件採用する予定。2024~2026 年度にも同様の公募を行う予定であるが、今回の公募への応募件数が少ないと、2024~2026 年度公募の採用件数が減らされてしまう可能性がある。プロジェクトの担当者は応募できないので、現時点でプロジェクトに関わっていない多くの研究者からの積極的な応募をお願いしたい。

・村岡委員より情報共有

日中韓フォーサイト事業「北東アジアにおける Future Earth の推進、気候変動とその影響を踏まえて」の公募が行われている。来年 8 月から 1000 万円×5 年間、最大 2 件採択。シンポジウムやワークショップなど、研究者交流を中心とするイベント開催費用、参加する研究者の出張旅費が、主な支出用途として想定されている。

https://www.jsps.go.jp/j-foresight/01_boshuyoko.html

・林委員より情報共有

林委員が責任者を務める地球研プロジェクト「人・社会・自然をつないでめぐる窒素の持続可能な利用に向けて」は、今年度末に Feasibility Phase が完了する。現在、次年度に Full Research Phase に進むための評価を受けており、内部評価は通過している状態である。外部評価に通ると 5 年間の予算がつく。来年 2 月に結果が分かるので、無事に通ったら iLeaps の承認プロジェクトにしてもらうように提案したい。

以 上